

令和 7 年度 施策評価表

施策	0503 医療体制の充実	施策担当部	福祉保健部	部長	吉村 武史
		施策担当課	国保けんこう課	課長	三谷 浩
施策の方針	救急医療体制の充実を図るとともに、医療機関との連携を強化する。また、地域の中核病院である市民病院について、ニーズに沿った医療サービスの向上及び提供に努める。				
関連するSDGsのゴール	  				

【DO（実施）】

後期基本計画（令和3年度～令和7年度）における数値目標

指標名	単位	基準値 (R1)	R3目標値	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R6年度	
			R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	R7実績値	達成率	進捗率
① 休日・夜間における外来患者数 (休日当番医、夜間初期診療センターの年間受診者数)	人/年	10,114	10,300 5,334	10,350 7,690	10,400 8,891	10,450 9,000	10,500	86.1%	85.7%
② 市民病院の病床稼働率	%	90.0	90.0 83.0	90.0 80.9	90.0 87.8	90.0 91.4	90.0	101.6%	101.6%
③									
④									
⑤									

施策達成状況の説明

① 休日当番医の受診者数は、昨年度より減少したが、夜間初期診療センターでは、令和6年12月からインフルエンザ・新型コロナウイルス抗原検査を開始したことに伴い、昨年度より受診者数が、増加している。
 ② 救急搬送の受入れを強化し、救急車応需率が上昇したことで救急搬送患者の入院が増え、新入院患者数が増加した。その結果、病床稼働率が上昇し、目標値を上回った。

施策経費

(単位:千円)		R6年度 決算	R7年度 予算	R8年度 見込	特記事項
内訳	事業費	848,722	788,049	820,432	
	国庫支出金	0	0	0	
	県支出金	580	580	580	
	地方債	0	0	0	
	その他	151,304	168,690	181,071	
	一般財源	696,838	618,779	638,781	
	人件費	20,626	23,001	—	
フルコスト	869,348	811,050	—		

施策の概要（細施策）

050301	安心して受診できる体制づくり	休日や夜間に市民が安心して医療機関を受診できるよう、大村市夜間初期診療センター、民間医療機関、市立大村市民病院及び国立病院機構長崎医療センターとの連携を図ります。 また、日頃から安心して受診できる身近な「かかりつけ医」の普及促進に努めます。
050302	市民病院の機能充実	地域医療の中核病院として、安定した経営基盤のもと医療サービスの向上を図ります。 また、診療所等からの患者の紹介や逆紹介など、患者が適切な医療を受けられるよう、市内をはじめとする他の医療機関との連携を強化します。 さらに、患者の症状やニーズに応じて、地域包括ケア病床や回復期リハビリテーション病床の入院状況を調整するベッドコントロールや、リハビリテーションの充実など、医療機能の充実を図ります。

【CHECK (評価) 施策担当部長】

施策を達成する上での問題点・課題

①休日当番医の受診状況は、令和5年度より減少しているがコロナ渦前の状態に回復し安定した状況である。夜間初期診療センターについては、令和5年度より増加しているが、コロナ渦前の半数以下の状況が続いている。引き続き関係機関と連携を図り市民が安心して受診できるような体制づくりに努める必要がある。
 ②市立大村市民病院については、引き続き2次医療機関として地域医療の中核を担う必要があることから、医師の確保や医療提供体制の充実など、一層の経営の安定化及び強化に努めていく必要がある。

【ACTION (改善・改革)】

上記の問題点・課題を踏まえた事務事業の改善・改革や新規事業についての考え方

夜間初期診療センターは、初期救急として、市民への適正な受診の提供及び周知に努め、二次・三次救急との連携を図っていく。
 市立大村市民病院において、救急現場での大村消防署との映像伝送システムの活用並びに地域の医療機関及び介護保険施設への病院救急車を使用したお迎え搬送を新たに開始するなど、関係機関との連携の強化を図るとともに、救急医療体制及びニーズに沿った医療サービスの充実を図る。

令和8年度新規事業

	事業名	担当課	令和8年度見込	対象・事業概要など
			事業費(千円)	
1				
2				
3				
4				
5				
			0	